

社外取締役からのメッセージ



模倣が困難な強みを
磨き続けていきます。

社外取締役
かししずえ
岸 志津江

インテージグループの強みは、デジタルマーケティングに欠かせない、消費者の購買行動やメディア接触、店頭での販売にかかわる大量のデータを収集し、分析する仕組みとノウハウを持っていることです。そして、そのノウハウを海外市場と国内医薬品ビジネスにも適用することにより、成長を続けています。社名の由来*である「知識」は模倣が困難であり、AIの活用が本格化する時代にますます有益な経営資源として活用されるでしょう。私は大学で広告とマーケティング、消費者行動を研究しており、これらの分野で助言できれば幸いです。

*株式会社社会調査研究所から2001年に社名変更を行った際、21世紀を「知の時代=Intelligence Age」と規定し、新しい時代を切り拓く大いなる志を込めて「インテージ」としました。

企業として持続・発展を続けるために、
第三者的な視点で前向きな監査を目指します。

監査等委員である取締役(社外)
なかしま ぼじめ
中島 肇



当社が収益の柱としてきたマーケットリサーチは、単にデータを解析・予測するという「演繹的推論」だけではいずれAIに取って代わられます。限られたデータから新しい仮説を創造するような「帰納的推論」を提供する事業に変化せざるを得ないでしょう。このような危機感、当社の取締役たち全員が共有しています。リスクを取り、失敗を重ねることもあるでしょう。こうした企業環境の劇的な変化の中で、社外取締役としてどのような役割を果たすべきなのか、悩ましい問題です。コンプライアンス面で消極的なチェック機能を果たすだけでは、役割を果たしたとは言えません。当社が企業として持続・発展を続けるために第三者的な視点で前向きなチェックをする、という難問を業務の中で社内でのコミュニケーションを取りながら考えていきたいと思えます。



多面的に発言して、
適正な意思決定に尽力します。

監査等委員である取締役(社外)
みやま ゆうぞう
三山 裕三

AI、IoT、ビッグデータの時代になっても、情報を価値に転ずることができるのは人間です。インテージグループが今後も成長していくためには、グループ構成員の暗黙知としての経験を全社的に共有できる仕組みを構築し、次世代にも伝えていくことが重要であると考えます。私の役割は、弁護士としての幅広い知見に基づき多面的に発言し、加えて会社の意思決定が適正に行われるよう、独立した外部者の目で監督することにあると思えます。

財務・会計・税務に関する知識と経験で
監査に努めます。

監査等委員である取締役(社外)
かしましずお
鹿島 静夫



社外取締役として、インテージグループの経営に係る重要な意思決定に際し、取締役会が、経営理念および株主の皆様に対する受託者責任を踏まえて、その機能を十分に果たしていることを監査するのが私の役割です。そのためには、重要な意思決定に際して、十分な情報および正確な理解に基づき、独立の立場から検討することが重要であると考えています。

急速に変化する事業環境下において、グループ各社が今後も持続的に成長していくためには、国内外での戦略的な投資などが不可欠となる中、私は取締役会の一員として、財務・会計・税務に関する知識ならびに経験を基に、努めてまいります。